

1,資本主義 (Capitalism) 経済とは

- ┌( )1の運動が基本原理となる経済体制のこと。
  - └社会に貨幣を投下⇒投下された貨幣がより大きな貨幣となって回収される。
  - └この貨幣を⇒( )2とよぶ。
  - └資本が利潤や( )3価値を生む社会システム⇒資本主義
- 産業革命の進展により19世紀中ごろからイギリスで言葉が用いられ始める。  
 経済学者のカール・マルクスは著書『資本論』の中で「資本主義」を定義。  
 「生産手段(富)が少数の( )4に集中し、一方で自分の労働力を売るしか生活手段がない多数の労働者が存在する生産様式」

資本主義の成立には┌( )5の生産と交換が一般化していること  
 └自己の労働力を( )6化する賃金労働者の存在 が必要。

- ・資本主義は、一般的に以下のような特徴を持つとされる。
- ┌資本家と労働者の二大( )7が成立
- └( )8財産制、私企業による生産
- └( )9における競争を通じた需要、供給、取り引き価格の調整
- └( )10市場を通じた雇用、労働の調整

・資本(2) ・商品(2) ・市場 ・私有 ・剰余 ・労働 ・階級 ・資本家

2,古典派経済学

アダム・スミス (Adam Smith, 1723- 90)

- イギリスの経済学者・哲学者。主著=『国富論』(または『諸国民の富』)
- ┌( )11価値説」の基礎を築いた。
- └「見えざる( )12」 (この言葉は、この著の第四篇第二章で1回使われているだけ)
- ┌「個人による自分自身の( )13の追求⇒結果として社会公共の利益をはるかに増進」
- └「分業による技術革新⇒労働生産性の上昇⇒( )14が生まれる。」

[自由主義経済] 古典派自由主義経済学は、

- ┌個人が利己的に行動する
- └市場において価格や品質等で( )15競争を行う
- ⇒意図せざる結果(「見えざる手」)として豊かな社会が成立する、と考える。

これを国と国との間についても適用し、

- ┌「各国は絶対優位性を持つ分野に特化するべき」とした⇒「( )16分業」
- └保護貿易を批判、自由貿易を支持⇒「自由( )17主義」を体系化。
- ・( )18を富の源泉とした⇒「労働価値説」
- ・労働投入量が商品( )19を左右するという考え⇒リカードやマルクスに継承される。
- ・またスミス以前の低賃金論に反対して、その成員の圧倒的多数が貧しい社会が隆盛で幸福であろうはずはないとして、高( )20論を展開。

・手 ・富 ・賃金 ・価格 ・自由 ・利益 ・放任 ・国際 ・労働(2)

3,マルクス経済学

カール・マルクス(Karl Marx ,1818-83) ドイツの哲学者、経済学者。主著=『資本論』  
 アダム・スミスらの古典派経済学の諸成果、とくに労働価値説を継承  
 「( )21価値説」を提唱

- ┌商品の価値はその生産に費された( )22の量によって決まる。
- └資本家と労働者の間で売買されるのは⇒「労働」ではなく「( )23」の概念を導入
- └「労働力」⇒商品のなかで、唯一「( )24」を生み出す商品。
- └資本家は労働力を使って賃金分を越える価値を生み出す。
- ⇒その超過分である剰余価値こそ資本の利潤の源泉である、とする。

「剰余価値説」によって資本の本質を分析⇒資本主義=「( )25の自己増殖過程」

- ┌剰余価値⇒労働時間・量に比例して大きくなる。
- └多くの労働力を使えば⇒多くの剰余価値を得ることになる。
- └( )26は産業予備軍= 相対的過剰人口=として必然的に生み出される。
- └競争により、少数の大企業が市場を支配する「( )27資本主義」が登場。

資本主義体制の下では

- ┌生産手段の私的所有と、生産の( )28的性格との矛盾から、
- └過剰生産( )29が不可避免的に生じ、
- └これが資本主義を破綻させると論じた ⇒「恐慌論」

⇒┌最終的に資本主義はその内在する矛盾によって社会主義革命を誘発

- └労働者階級の独裁を経て階級のない( )30主義に必然的に至ると考えた。

歴史観⇒ヘーゲル(1770~1831)の弁証法とフォイエルバッハ(1804~72)の唯物論を融合

⇒「( )31史観」

「下部構造=経済的要因=が上部構造=政治体制・文化など=を変化させる」とした。



・資本 ・社会 ・価値 ・労働(2) ・恐慌  
 ・失業 ・剰余 ・共産 ・唯物 ・利潤  
 ・独占 ・労働力

